

“外国語”“外語”と 「外国語」「外語」をめぐって

彭 広 陸

要旨 「外国の言語」という意味を表す単語として、中国には“外国語”と“外語”、日本語には「外国語」と「外語」があり、更にそれぞれ類義関係にある。しかし、意味的にも実際の使用においても日本語の「外国語」に対応するのが基本的に“外語”であり、“外国語”は、学校名や大学の学部名などにしか使われなくなっている。歴史が古く、語彙的な意味の明示性の高い“外国語”がその略語に当たる“外語”に取って代わられた根本的な理由は、二音節語化にあると考えられる。いまや、むしろ“外語”が略語である意識が非常に希薄化している。そして、“外”による複合語を見ても、それが「外国(の)」という意味を表す比率が日本語における「外」の場合を大きく上回っている。これも、“外語”の定着・普及を支える大きな理由となっている。日本語における「外語」は、中国語の“外語”と異なり、略語であると同時に、多義語でもある。本稿は、“外国語”“外語”「外国語」「外語」という4語の語源・語構成・意味、使用実態及び対応関係などを考察・比較したものである。

キーワード “外国語” “外語” 「外国語」 「外語」 中日比較

说“外国語”“外語”和「外国語」「外語」

摘要 作为表示“外国的语言”之意的词语，汉语中有“外国語”和“外語”，日语中有「外国語」和「外語」，且它们各自为近义关系。然而，无论是词义还是实际的使用情况，汉语中与日语的「外国語」一词对应的基本上是“外語”，而“外国語”现在主要用于校名或大学的院系名称。“外語”的产生远远早于“外語”，词义的透明度又优于“外語”，但最终“外国語”被其缩略

语“外语”所取代的根本原因在于汉语词汇的双音节化。现在已经很少有人还认为“外语”是缩略语了。在由“外”构成的复合词当中，“外”表示“外国(的)”的比例要远远高于日语中的「外」。这也是“外语”得以固定下来并普及开来的一个主要原因。与汉语中的“外语”不同，日语中的「外語」是「外国語」的缩略语，而且它还是多义词。本文从词源、构词、词义、使用情况以及对应关系等方面考察了“外国语”“外语”「外国語」「外語」这4个词，并进行了对比。

关键词 “外国语” “外语” 「外国語」 「外語」 汉日对比

はじめに

〈外国の言語〉という意を言い表すのに、中国語と日本語では、それぞれ“外国语”“外语”と「外国語」「外語」が使用されている。この4語は次のような対応関係となっている。

表1 4語の対応関係

	同形語	同形語	
中国語	外国语	外语	類義語
日本語	外国語	外語	類義語

つまり、中国語における“外国语”と“外语”、日本語における「外国語」と「外語」がそれぞれ類義関係にあり、中国語の“外国语”と日本語の「外国語」、中国語の“外语”と日本語の「外語」がそれぞれ同形語となっているのである。

本稿は、上記の4語の意味用法を確認した上で、その使用実態・相違および対応関係を明らかにすることを目的とするものである。

1. 中国語における“外国語”と“外语”との比較分析

1.1 辞書に見られる意味解釈

中国で出版された代表的な中国語辞典における“外国語”“外语”の意味解釈は、次の通りである。

表2 “外国語”の語釈

辞書名	版数	出版社	出版年	項目	語 釈
現代汉语词典	第7版	商务印书馆	2016年	外国語	☒外国的语言（包括文字）。
現代汉语规范词典	第3版	外语教学与研究出版社、语文出版社	2014年	外国語	☒外国的语言文字。
应用汉语词典	第1版	商务印书馆	2000年	外国*	[名]本国以外的国家：～语

*《应用汉语词典》には“外国語”という項目が収録されていないため、語例として“外国語”が挙がっている“外国”の項目の一部を掲げることにした。

表3 “外语”の語釈

辞書名	版数	出版社	出版年	項目	語 釈
現代汉语词典	第7版	商务印书馆	2016年	外语	☒外国語。
現代汉语规范词典	第3版	外语教学与研究出版社、语文出版社	2014年	外语	☒外国語言。
应用汉语词典	第1版	商务印书馆	2000年	外语	[名](门, 种) 外国語

上掲の辞書での語釈を見て分かるように、“外国語”と“外语”は類義の関係にある。そして、“外语”が“外国語”の省略された形であることは、《現代汉语词典》と《应用汉语词典》における語釈からも見て取れる。なお、《略語手冊（略語ハンドブック）》（李熙宗・孙蓮芬編、知识出版社、1986年）においても、“外语”は“外国語”の略語として扱われている。

一方、“外国語”と“外语”は、類義語であるとはいえ、両者の語構成に相違が見られる。表4に示したように、構成要素（語基）である“外”が多義的であるのに対して、“外国”の意味は一義的である。このため、後者の意味の方が、より明示的である。

表4 “外国語”と“外語”の語構成の比較

	語 構 成
外国語	←外国〈外国〉+語〈語言(「言語」)〉
外語	←外〈外国〉(〈……〉)+語〈語言(「言語」)〉

つまり、〈外国〉という意味を表す形態素(語基)として、“外”より“外国”の方が単義語ゆえに明示的で分かりやすいのである。それに対して、“外”の意味は、表5の通り多岐にわたっている。

表5 “外”の語積

辞書名	版数	“外”の語積
現代汉语词典	第7版	①方位词。外边(跟“内”、“里”相对): ~表 ~伤 ~壳 门~ 出~ 课~活动。②指不是自己所在地或所属单位的: ~地 ~埠 ~省 ~校。③外国: ~文 古今中~ 对~贸易。④称母亲、姐妹或女儿方面的(亲属): ~祖母 ~甥 ~孙。⑤关系疏远的: ~人 见~。⑥另外: ~加 ~带。⑦方位词。以外: 此~ 除~ 六百里~。⑧非正式的;非正规的: ~号 ~传 《儒林~史》

表6 “外”が前要素として構成される二字熟語の意味的タイプ

	意 味	語 例	比 率
タイプ1	〈外国〉または〈国際(国際)〉という意味を表すもの	外币、外宾、外钞、外电、外访、外患、外货、外交、外教、外轮、外贸、外企、外侨、外商、外文、外侮、外需、外资	18語 (46%)
タイプ2	〈外国〉という意味も他の意味(例えば〈外地(よそ土地)〉など)も表すもの	外购、外嫁、外卡、外来、外流、外人、外事、外逃、外销、外引、外援、外债、外族	13語 (33%)
タイプ3	〈外国〉以外の意味を表すもの	外埠、外出、外敌、外寇、外地、外港、外借、外聘	8語 (21%)
	合 計		39語 (100%)

“外”は、表5のように多義的であるので、生産的であり、複合語を作る能力が非常に強い。〈外国〉という意味を表すかどうかという観点から、項目(見出し語)として《現代汉语词典》に収録されている“外+△”タイプの二字熟語(二音節語)を表6のように分類することができる(ただし、△

に相当する後要素は、名詞的な形態素に限らないことを断っておく。

つまり、現代中国語では、“外+△”による二字熟語の8割ほどが意味的に外国と関係のある語となっているのである。これも、後述の二音節化の理由に加えて、“外語”が従来の“外国語”に取って代わって定着してきた根本的な理由の一つであると考えられる。

1.2 語源

以下、古代から明の時代にかけて出版された中国語の書物がほぼ網羅的に収録されている《中国古典数字工程（中国古典デジタルプロジェクト）》¹⁾という中国古典のコーパスを利用して“外国語”と“外語”の語源を確認してみた。その結果、“外国語”の用例は、113例抽出できた。そして、最古の用例は南北朝の梁の時代（502-557）に遡ることができ、後に隋・唐の時代となると広く使われるようになっていく。その中では仏典の翻訳と関係する用例が圧倒的に多い。それに対して、“外語”の用例は1例も抽出できなかった。更に、北京大学中国語言語学研究中心による古代中国語のコーパス（CCLコーパス・古代中国語領域）をも検索してみたが、外国の言語という意味を表す“外語”のヒット数はゼロであった。このことは、“外語”という単語の登場が清の時代かそれ以降となることを物語っているし、更に“外語”が“外国語”の省略されたものである証拠ともなるだろう。“外国語”の用例の分布は次頁表7の通りである。

次にその用例を挙げておく。

- (1) 劫賓那者。亦是外國語。此間翻言坊宿。（妙法蓮華經義記卷第一）
- (2) 阿耨菩提。是外國語。（維摩義記卷第一）
- (3) 為證此義。須知阿難立字因緣。阿難陀者。是外國語。此名歡喜。（仁王經疏）
- (4) 彼師通曰。此等經文。是翻譯家故漢互舉。綺飾其文。若使令存外國語

1) 当該コーパスは未完成であり、清の時代と中華民国の時代に限っては全部ではなく、一部の書物が収録されているのみとなっている。

表7 “外国語”の分布

書名	成立時代	用例数
妙法蓮華經義記	梁	6
佛說觀無量壽佛經義疏	隋	1
維摩義記	隋	8
涅槃義記	隋	3
勝鬘經義記	隋	4
佛說無量壽經義疏	隋	1
溫室經義記	隋	1
十地義記	隋	5
大乘義章	隋	20
地持義記	隋	5
維摩經疏	隋	2
法華義疏	隋	3
金剛般若經義疏	隋	2
仁王般若經疏	隋	1
大品經玄意	隋	5
勝鬘經寶窟	隋	4
仁王經疏	隋	1
續高僧傳	唐	1
四分律鈔簡正記	唐	2
四分律開宗記	唐	1
飾宗義記	唐	1
四分律鈔批	唐	7
涅槃宗要	唐	2
一切經音義	唐	4
貞元新定積教目錄	唐	2
翻梵語	不詳。唐以前？	1
涅槃經疏三德指歸	宋	1
四分律隨機羯磨疏正源記	宋	1
四分律行事鈔資持記	宋	1
輿地紀勝	南宋	1
樂邦遺	南宋	1
宋史	元	1
新脩科分六學僧傳	元	1
四分律名義標釋	明	2
鼎湖山人居在慘禪師剩稿	明末清初	1
六道集	清	1
明史	清	1
續資治通鑑	清	1
紀伍老博士	清	1
清史稿	中華民國	5
何耶揭喇婆像法	不詳	1
合計		113

- 者。既言若使涅槃。非涅槃者。(涅槃宗要)
- (5) 故佛經云。求於無上正真之道。又云。體解大道。發無上意。外國語云阿耨菩提。晉音翻之無上大道。若以此驗。道大佛小。於事可知。(續高僧傳三十一)
- (6) 聲論者云。正外國語。應言文闕。翻為出。即是虎鬚草。(翻梵語卷第三)
- (7) 和上者外國語。漢言知有罪知無罪。是名和上。(四分律開宗記卷第七)
- (8) 北邊亦無事。靖三使契丹。亦習外國語。嘗為番語詩。(宋史三百二十 列傳第七十九)
- (9) 歷偏頭關。抵太原。大徵女樂。納晉府樂工楊騰妻劉氏以歸。彬與諸近幸皆母事之。稱曰劉娘娘。初。延綏總兵官馬昂罷免。有女弟善歌。能騎射。解外國語。嫁指揮畢春。有娠矣。(明史三百七 列傳第一百九十五)
- (10) 大抵此期設學之宗旨。專注重實用。蓋其動機緣於對外。故外國語及海陸軍得此期教育之主要。無學制系統之足言。(清史稿卷一百七 志八十二 選舉二)
- (11) 癸亥。削除官爵。編管全州。其子弟恩澤並追奪。知制誥余靖。前後三使遼。益習外國語。嘗對遼主效其國語。(續資治通鑑卷第四十七 宋紀四十七)
- (12) 老博士曾語予云。今告汝辦外交之密訣。精通外國語。而詞鋒犀利者。此演說宣傳家之事。非外交家之事。(紀伍老博士)

1.3 現代語における使用実態

“外語”は生成が“外国語”より千数百年も遅れを取っていながら、登場後、“外国語”を凌ぐ勢力を見せている。表8は幾つかのコーパスを通しての調査結果である。

このように、いずれのコーパスでも、“外語”の用例数は“外国語”を大きく上回っている。これは前者が二音節語であるということが何よりも大きく関わっていると考えられる。二音節語化というのは、現代中国語の語彙の大きな特徴となっているため、“外語”もそれに合致するのである。

表8 “外国語”“外語”の用例数

コーパス名	“外国語”	“外語”	アクセス
CCL 語料庫 (現代漢語)	985	4,003	2018年10月18日
人民日報图文数据库 (1946–2019)	2,072	5,563	2019年11月 8 日
BBC 語料庫 (多領域)	3,471	18,418	2019年11月 8 日
語料庫在线 (現代漢語語料庫) (WWW.CNCORPUS.ORG) ©2011~2019	23	152	2019年11月 8 日

表9 中国の学校名に見られる“外国語”と“外語”

外国語 35校 85%	外国語大学 (6校)	北京外国語大学、上海外国語大学、天津外国語大学、大連外国語大学、西安外国語大学、四川外国語大学
	外国語学院 (8校)	北京第二外国語学院、河北外国語学院、黒龍江外国語学院、長春外国語学院、浙江越秀外国語学院、浙江外国語学院、安徽外国語学院、廣西外国語学院
	外国語職業学院 (3校)	湖南外国語職業学院、山東外国語職業学院、海南外国語職業学院
	外国語学校 (18校)	北京外国語大学附属外国語学校、上海外国語大学附属外国語学校、天津外国語大学附属外国語学校、四川外国語大学附属外国語学校、廣西師範大学附属外国語学校、長春外国語学校、石家莊外国語学校、濟南外国語学校、鄭州外国語学校、太原外国語学校、南京外国語学校、杭州外国語学校、武漢外国語学校、南昌外国語学校、成都外国語学校、厦門外国語学校、廣州外国語学校、深圳外国語学校
外語 6校 15%	外語外貿大学 (1校)	廣東外語外貿大学
	外語～学院 (5校)	內蒙古經貿外語職業学院、蘭州外語職業学院、福州外語外貿学院、江西外語外貿職業学院、武漢外語外事職業学院

しかし、大学名など学校名に使われる場合は、圧倒的に“外国語”の方が多。これについては省略語を用いない方が正式な印象が与えられるからだと考えられる。

“外語”の直後に“大学”“学院”“学校”が後接する例は無く、いずれもその間に“外貿”“職業”“外事”という二字熟語が後接している。一方、日本の大学における外国語学部に対応する機関名は表10に見られるように多

“外国語”“外语”と「外国語」「外语」をめぐって

様化しているが、この場合でも、“外语”より“外国語”のほうが多用されている。ただし、“～学院”ではなく、“～系”となると、“外语”しか用いられていない。どうやら“[外国+语]+系([2+1]+1)”という構造に落ち着きの悪さがあるようである。しかし、“外语系”というのは、実際には、“外国语言文学系(外国言語文学部)”の略語であり、“外语”の意味がズレてしまうのである。

表10 大学における“外国語学院”と“外语学院”

名 称	比 率
外国語学院	575校 (69%)
外语学院	101校 (12%)
外国语言～学院	22校 (3%)
外语系	99校 (12%)
外国～系	26校 (3%)
その他(“外文系”“外文学院”など)	5校 (1%)
合 計	828校 (100%)

なお、雑誌名となると逆転してしまい、“外语”のほうが圧倒的に多い。

表11 雑誌名に見られる“外国語”と“外语”

外国語	《外国語》(1誌、9%)
外语	《外语教学与研究》《外语界》《外语教学》《现代外语》《外语与外语教学》《中国外语》《外语学刊》《外语教学理论与实践》《外语电化教学》《外语研究》(10誌、91%)

更に、出版社名や組織名などにはもっぱら“外语”が用いられている。

表12 出版社名と機構名に見られる“外语”

出版社名	外语教学与研究出版社、上海外语教育出版社
機関名	外语教学指导委员会、大学外语教学指导委员会

資格試験名にも、“全国外语翻译证书考试(全国外国語通訳・翻訳資格試験)”とあるように、“外语”が使用されている。

このように、“外语”という語は完全に市民権を得ており、それに対する略語の意識が非常に薄れてきて、話し言葉においても書き言葉においても広く使われているのが事実である。大学名や大学の機関名を除けば、ほとんど“外语”の独擅場となっていると言ってよかろう。

2. 「外国語」と「外语」との比較分析

2.1 辞書に見られる意味解釈

日本の国語辞典における「外国語」「外语」の語釈は表13・14の通りとなっている。

注意すべきは、『大辞林』のように見出し語として「外国語」が収録されていなくても「外语」が収録されている辞書があることである。これは、前者の方が単義語であり容易に字面から意味が読み取れるのに対し、後者は多義語であり意味がそれほど明示的ではないからであろう。さらに、表14からは、固有名詞の略称として用いられている「外语」の特徴が明らかである。

表15によって示されているように、形態素としての「外」の表す意味は多岐にわたっている。このうち、『日本国語大辞典』『広辞苑』では意味区分がなされていないが、その場合においても、その意味範囲が広いことは否めないだろう。

ただし、表15における多岐にわたった意味区分においても、〈外国（の）〉

表13 「外国語」の語釈*

辞書名	版数	出版社	出版年	語 釈
日本国語大辞典	第2版	小学館	2001年	『名』（その人の母国語に対して）外国の言語。また、その語彙。
広辞苑	第7版	岩波書店	2018年	外国の言語。
学研国語大辞典	第2版	学習研究社	1989年	外国の言語。
新明解国語辞典	第7版	三省堂	2011年	外国の言語。

*『大辞林』（第3版）には、「外国語」は見出し語としても小見出し語としても掲載されていない。

“外国語” “外语” と「外国語」「外语」をめぐる

表14 「外语」の語釈

辞書名	版数	出版社	出版年	語 釈
日本国語大辞典	第2版	小学館	2001年	①外国のことば。外国語。②「がいこくごがっこう(外国語学校)」の略
広辞苑	第7版	岩波書店	2018年	①外国のことば。外国語。↔内語。②外国語大学・外国語専門学校の略。「東京一」
大辞林	第3版	三省堂	2006年	①外国の言葉。外国語。↔内語②→外言語(ガイゲンゴ)
学研国語大辞典	第2版	学習研究社	1989年	①「外国語」の略。㊦洋語。㊧内語。②「外国語学校」の略。外国語を教えるための学校。③「外国語大学」の略。外国語を教えるための大学。「東京一」
新明解国語辞典	第7版	三省堂	2011年	「外国語」の略。「一大 [=外国語大学]」

表15 「外」(がい)の語釈*

辞書名	版数	出版社	出版年	語 釈
日本国語大辞典	第2版	小学館	2001年	《語素》ある範囲に含まれない部分。そと。ほか。↔内(ない)
広辞苑	第7版	岩波書店	2018年	(呉音はゲ)一定の範囲のそと。↔内(ない)
大辞林	第3版	三省堂	2006年	①そとがわ。表面。②ある範囲から出たところ。そと。③正統のものとは別の。④妻の身内。⑤除く。よける。
新明解国語辞典	第7版	三省堂	2011年	㊦表面。うわべ。㊧そと。ほか。㊨はずす。のけものにする。㊩外国の。㊪本すじでないこと。わきすじ。
岩波国語辞典	第7版 新版	岩波書店	2011年	①そと。そとがわ。うわべ。↔内。②ある範囲からはずれたところ。↔内。③自体・本体とは別のもの。④母のほうの身内。⑤のけものにする。はずす。
明鏡国語辞典	第2版	大修館書店	2010年	①ある範囲にはいらぬもの。そと。ほか。↔内。②表面。うわべ。③除く。のけものにする。④外国。

*『学研国語大辞典』(第2版)には、接尾辞としての「外(がい)」しか収録されていない。

表16 「外(がい)」が前要素として構成される二字熟語の意味的タイプ

	意 味	語 例	比 率
タイプ1	〈外国〉または〈国際〉という意味を表すもの	外夷、外貨、外画、外客、外語、外寇、外国、外債、外材、外紙、外資、外事、外車、外需、外相、外信、外人、外征、外政、外為、外地、外電、外賓、外邦、外報、外米、外遊	27語 (32%)
タイプ2	〈外国〉という意味も他の意味(例えば〈外部〉〈そと〉など)も表すもの	外圧、外患、外交、外字、外商、外敵、外侮、外務、外来	9語 (10%)
タイプ3	〈外国〉以外の意味を表すもの	外因、外延、外苑、外縁、外海、外界、外角、外郭、外観、外気、外局、外勤、外形、外径、外見、外光、外向、外港、外在、外史、外耳、外周、外出、外傷、外食、外陣、外戚、外線、外装、外層、外孫、外注、外的、外伝、外灯、外套、外泊、外皮、外部、外物、外聞、外壁、外編、外貌、外面、外野、外用、外容、外洋、外力	50語 (58%)
	合 計		86語 (100%)

という意味項目を立てている辞書はむしろ少ないのである。〈外国(の)〉が立項されていないことは、〈外国(の)〉という意味の「外」を用いて構成される熟語に対する認知度が低いことを意味しているのではないだろうか。『新明解国語辞典』(第7版)に収録されている「外(がい)+△」による二字熟語を語義の違いによってリストアップすると、表16となる。

このように、タイプ1とタイプ2の語数を合わせると、4割あまりに止まっている。特に、収録語数には大差がない、8割ぐらゐを占めている《現代汉语词典》における“外+△”型の二字熟語に比べると、「外(がい)」の、〈外国(の)〉という意味を表す二字熟語を造る能力が落ちていると言わなければなるまい。これも後述するように、意味の明示性の低さによって「外語」の使用が限られている現実につながっていると考えられる。

2.2 語源

『日本国語大辞典』（小学館、2003年5月30日、第二版第三巻第四刷）に収録されている「外国語」と「外語」の項目は次の通りとなっている。

【外国語】【名】（その人の母国語に対して）外国の言語。また、その語彙。

*ダビット・モルレー申報-明治六年（1873）「外国語を授する学校を建るは、今日日本の学制に於て実に緊要の一部なれば」*日本開化小史（1877-82）〈田口卯吉〉四・七「至難の外国語を以て之を文章に顯はさしめたるの致す所なり」*思出の記（1900-01）〈徳富蘆花〉二・九「諸君は随意によき師を求めて、外国語なども修めて」

〔発音〕ガイコクゴ 〈標ア〉① 〈京ア〉①

【外語】【名】①外国のことば。外国語。②「がいこくごがっこう（外国語学校）」の略。*真夏の死（1952）〈三島由紀夫〉「外語を卒業して、戦前から米国系の商社に勤めてゐたので」〔発音〕ガイゴ 〈標ア〉① 〈京ア〉①

これによって分かるように、歴史的に見れば、「外国語」の使用の歴史がずっと古く、「外語」の登場がかなり遅れているのである。

2.3 現代語における使用実態

「外国語」と「外語」の使用実態の格差は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）によって端的に示されている。やはり、意味が明示的でないということが「外語」の使用頻度に影響しているようである。

表17 「外国語」「外語」の用例数
(2018年10月18日アクセス)

	外国語	外語
BCCWJ	749	42

表18によって示されているように、大学名の場合は、「外国語」が使われるのが普通であり、「神田外語大学」だけが例外的な存在である。一方、「～学院」となると、圧倒的に「外語」が多くなっている。

表18 日本の大学・専門学校の名称に見られる「外国語」と「外語」

大学 7校 (100%)	外国語	関西外国語大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、東京外国語大学、長崎外国語大学、名古屋外国語大学（6校、86%）
	外語	神田外語大学（1校、14%）
学院 60校 (100%)	外国語	九州外国語学院、難波外国語学院、セイドー外国語学院（3校、5%）
	外語	アーサー外語学院、愛和外語学院、アサヒ外語学院、アジアC&C外語学院、アドバン外語学院、アリスト外語学院、アルファ外語学院、ウィンドミル国際外語学院、大阪朱友外語学院、沖縄ビジネス外語学院、外語学院アドバンスアカデミ、外語学院インターエド、カイズ外語学院、鹿児島外語学院、カリフォルニア外語学院、桐生外語学院、クレデンシャルズ外語学院、現代外語学院、国際外語学院、国際交流センターワールド外語学院、浄心外語学院、清華外語学院、ソフィア外語学院、タイ国チュンライ県のみんなの外語学院、伊達外語学院、中央外語学院、テマセック外語学院、東京芝浦外語学院、東京ワールド外語学院、ナイカラ外語学院、習志野外語学院、ノア外語学院、バベル翻訳外語学院、パラビオン外語学院、ビサ外語学院、ビホウ外語学院、広島YMCA外語学院、フォスター外語学院、船橋国際外語学院、プログレス外語学院、フロンティア外語学院、マーガレット外語学院、水野外語学院、三原国際外語学院、名城外語学院、武蔵野外語学院、ユニタス外語学院、ワールド外語学院、AES外語学院、APH外語学院、ECC外語学院、ICC外語学院、JO外語学院、KEC外語学院、KGG関西外語学院、MANABI外語学院、Orbit外語学院（57校、95%）

3. 考察および結論

中国語では、“外国語”は音節数が多いだけに、大学名やその機関名に使われる場合を除けば、ほとんど使われていないのが現状である。それに対して、“外語”はもはや略語という意識が希薄になってしまい、正式名称にも日常生活にも多用されている。“外”という形態素によって〈外国〉という意味を表す二字熟語が数多く作られていることも“外語”の定着を支えていると考えられる。

一方、日本語においては、「外国語」が広く用いられている用語であるの

“外国語” “外語” と「外国語」「外語」をめぐって

に対して、「外語」は学校名や学校名の略称にしか使われていないと見なせる。〈外国 (の)〉という意味を表す形態素としての「外」の認知度が低いことに起因しているようである。

したがって、中日対照の観点から見れば、“外国語” “外語” と「外国語」「外語」の4語は、実質的には次のように対応しているように思われる。



4. 余論

これまで考察してきたように、現象的に見れば、中国語と日本語の間にいわゆる中日同形語が存在しているように見えるものの、実際に意味用法が対応しているのは非同形語である場合があるのである。同じことは、“日语” “日本語” と「日本語」「日語」との対応関係についても言える。「日本語」と対応しているのが“日语”なのである²⁾。

参考文献

彭広陸 (2018) 〈「日本語」「日語」と“日语”“日本語”について〉《语言文化学刊》第5号
李熙宗・孙莲芬編 (1986) 《略語手冊》 知识出版社

彭広陸 Peng Guanglu 陝西師範大学教授 専門：日本語学、中日対照言語学

2) 彭広陸 (2018) 参照。